北海道新聞 広告特集
メディカルガイド 特別版
中央・南版　2017年／春号

マイタウン・マイドクター

保存版

皆さんは「神経内科」と聞くとどんなイメージを持たれるでしょうか。神経？脳？と、どんな病気を診ているのかよく分からないという方も多いかもしれません。今回は、神経内科の診療内容や上手なかかり方などについて、札幌パーキンソンMS神経内科クリニックの廣谷真院長にお話を伺いました。

神経内科ってどんな診療科ですか？

神経内科で診る疾患は、脳、脊髄、末梢神経、筋疾患と範囲が広いのが特徴で、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患のほか、免疫性神経疾患（多発性硬化症〈MS〉、ギラン＝バレー症候群など）、神経感染症（髄膜炎、脳炎など）、代謝性神経疾患、末梢神経疾患など、多岐にわたる疾患を扱います。心療内科や精神科と、神経内科はよく混同されてしまいますが、全く別の診療科です。心療内科や精神科は、「心の病」や「精神的な問題（からくる体の症状）」などを診察する専門科です。

どんな症状がある時に、神経内科を受診すればいいですか？

頭痛、物忘れ、しびれ、めまい、ふるえ、脱力、歩きにくい、ふらつく、突っ張る、むせる、喋りにくい、ろれつが回らない、けいれん、物が二重に見えるなどの症状です。

神経内科では頭から指先までの神経全体に加え、筋肉や感覚器もふくめて総合的に診療します。その上で、例えば、骨や関節の病気がしびれや脱力の原因になっていると考えられるなら整形外科に、また、脳に問題がありそうで、かつ手術が必要なときは脳神経外科に、というように他の診療科へ紹介する窓口になることも多いです。

先に挙げた症状などが気になる方は、どの診療科で治療を受けるのが最も良いか、その交通整理をするためにも、最初に神経内科の受診をおすすめします。病気のよろず相談所、そんなイメージを持っていただきたいです。

神経内科の診療はどんなものなのでしょうか。

診療は、まず症状を詳しく聞くことから始まります。次いで、眼や顔面などを動かす脳神経、運動機能、感覚機能、バランス機能などを順に細かく診察する「神経学的検査」をおこない、症状が脳・脊髄・末梢神経・筋肉のどこから来ているのかを把握します。そういった専門的な神経学的診察に加え、CTやMRIなどの画像検査や神経伝導速度検査、脳脊髄液検査、筋生検など神経内科ならではの検査を組み合わせ、病気の正しい診断をし、適切な治療法を考えていきます。

注射を使った治療もあると聞きましたが。

神経内科が扱う病気の中に、眼瞼けいれん、片側顔面けいれん、手足の痙縮（つっぱり）があります。自分の意思とは関係なく筋肉が収縮してしまうために起こる病気です。以前は有効な治療法がなかったのですが、現在はボツリヌス・トキシン注射療法によって症状を軽くすることができるようになっています。この注射は、自由診療として美容目的に使われることもありますが、神経内科（及び一部の脳神経外科、眼科）では、眼瞼けいれんなどの病気に対して保険診療で治療します。

神経内科でのリハビリはどんなものなのでしょうか。

神経内科では、神経難病や高次脳機能障害のリハビリテーション治療も行います。症状を改善させる治療・進行をおさえる治療はもちろん重要ですが、もし症状が残ってしまったとしても生活におけるハンディキャップを軽減することは可能です。症状に応じたリハビリで身体機能の維持・向上を目指します。

最新のリハビリ治療の一つが、患者さんの歩行機能を改善する装着型ロボットです。歩こうとする時に脳から筋肉に送られる神経の信号を、両脚に貼ったセンサーが捉え、その人に必要な分だけモーターが動いて歩行動作を助けます。意図した通りに体を動かす体験を繰り返すことで、神経同士や神経と筋肉のつながりを強くし、病状の進行を遅らせます。効果が一目でわかるのも強みで、自分の脚で歩くという成功体験が、患者さんの自信に繋がっています。この装着型ロボットを使い全身の筋力が徐々に衰える筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症（ALS）など8つの難病を対象に保険適用で治療をする方法もあります。

最後に読者にメッセージをお願いします。

神経・筋の病気は多様な症状が出るため、脳神経外科、整形外科、眼科などを受診される場合が多いようです。診療科としての専門は神経内科であることを覚えておいてくださると、早い診断・治療に結びつくのではないかと思います。また、ご家族など、周りの方のお話も参考になるため、一緒に来院いただくことをお願いしたいです。

患者さんがご自身の病気と上手に付き合い、社会でよりその人らしくいられるために、知恵を絞り出してサポートしていくのが私たち神経内科専門医の役割です。気になることがあれば、何でもご相談ください。

札幌パーキンソンMS神経内科クリニック
院長 **廣谷真**先生

平成13年 札幌医科大学医学部卒業
その後、道内の基幹病院に複数勤務
平成25年 北海道大学病院診療准教授
平成28年11月から現職
日本内科学会認定総合内科専門医
日本神経学会認定神経内科専門医

広告

医療法人 北祐会

表紙-❶
医療法人 北祐会
北祐会神経内科病院
地下鉄二十四軒駅 2番出口から徒歩8分
診療科目 神経内科・リハビリテーション科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30～11:30	●	●	●	●	●	／
12:30～15:30	●	●	●	●	●	／

休診日／土曜・日曜・祝日
院長 森若 文雄　副院長 武井 麻子
予約専用ダイヤル 011-631-1169
札幌市西区二十四軒2条2丁目4-30

表紙-❷
医療法人 北祐会
札幌パーキンソンMS 神経内科クリニック
JR札幌駅 西口・北口徒歩3分 ヨドバシカメラ北向かい
診療科目 神経内科・リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土
10:00～14:00	●	●	●	●	●	●
15:00～19:00	●	●	●	／	●	●

休診日／日曜・祝日
院長 廣谷 真　副院長 田代 淳
予約専用ダイヤル 011-631-1165
札幌市北区北7条西5丁目7番1号
第27ビッグ札幌北スカイビル12階

神経・筋疾患を中心に診療
手足のふるえ・手足の脱力・ふらつき・めまい
動作が鈍い・しびれ・転びやすい・呂律（ろれつ）が回らない

すべては患者さんのために

医療法人北祐会は、昭和57年に北祐会神経内科病院を開設。治療が困難である【北】海道の神経・筋疾患の患者さんを【祐】（たすけたい）という思いが込められています。

同グループの最大の特徴は、一般社団法人日本神経学会神経内科専門医9名が集う点です。「神経診察には訓練された医師の手が必要であり、神経内科医としての経験が生かされます。」（濱田晋輔理事長）

神経内科関連疾患は、患者さんによってその症状の出現の仕方も異なり、1人ひとりに応じたオーダーメイドの診療が必要です。医療用装着型ロボット「HAL」をはじめとした多彩な機器を導入し、神経・筋疾患の治療を中心としたリハビリテーションも行っています。

医療法人 北祐会
理事長
濱田 晋輔

札幌駅前にクリニックを開設

医療法人北祐会は、この度、さらに満足度の高い医療提供を目指し、札幌駅の近くに『札幌パーキンソンMS神経内科クリニック』を開設しました。夜間（19時まで）・土曜日（全日）も診療を行っています。外来で理学療法、作業療法、言語・摂食嚥下療法が可能で、4月3日から訪問リハビリテーションも開始しています。

多様な神経・筋疾患の症状

神経・筋疾患は、歩き方がおかしい、手足がふるえる、力が入らない、しびれ、動作が遅い、呂律が回らない、物忘れ、など日常で認められる症状で発症するものが多くあります。またMRI検査や採血などで異常を指摘されないこともあります。医療法人北祐会ではこれらの症状に対して「正確な診断、適切な治療と細やかな支援、生活環境の整備」を理念にあげ診療を行っています。